

ドラッグインフォメーション

2019年11月改訂

販売名	ヨシピリン	製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日局 イソプロピルアンチピリン	発売年月	1982年5月	
洋名	Isopropylantipyrine	薬価収載年月	1982年4月	
一般名	イソプロピルアンチピリン	薬価	1g 12.30	健保適用
剤形	散剤	日本標準商品分類番号	871144	
規制区分	劇薬	YJコード	1144002X1025	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	1144002X1017	YJコード	1144002X1025	
構造式	 <p>4-isopropyl-1,5-dimethyl-2-phenyl-1,2-dihydropyridin-3-one 分子式: C₁₄H₁₈N₂O 分子量: 230.31</p>	性状	白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。 酢酸(100)に極めて溶けやすく、エタノール(95)又はアセトンに溶けやすく、ジエチルエーテルにやや溶けやすく、水に溶けにくい。	
組成	本品を乾燥したものは、イソプロピルアンチピリン(C ₁₄ H ₁₈ N ₂ O)98.0%以上を含む。			
効能・効果	下熱鎮痛薬の調剤に用いる。			
用法・用量	下熱鎮痛薬の調剤に用いる。			
薬理作用	アンチピリン、アミノピリンとほぼ同様な解熱鎮痛作用をもつが、正常体温に対する影響はアミノピリンより少ない。作用機序は両者と同様中枢性で体温は一過性に下がることがある。本品は単品としての特色は少なく、他の鎮痛、解熱、消炎、各薬剤などと配合したときの臨床効果が大きいといわれる。			
体内薬物動態	本品をヒトに経口投与すると消化管から速やかに吸収され、1～2時間後に血中濃度は最高となり効果は4～6時間前後で最大となる。1時間6%ずつ血中から消失し、主な尿中代謝体は脱メチル化のエノール型グルクロニドで総尿中代謝体の約80%を占める。250mg投与を受けた健常被検者の24時間尿中に、同物質を投与量の0.8%、また未変化体を0.04%認めたと報告がある。			
毒性	急性毒性: LD (mg/kg) マウス ウサギ ネコ 経口 2000 500 150～200			

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤又はピラゾロン系化合物(アミノピリン等)に対し、過敏症の既往歴のある患者。

1. 慎重投与

- (1) 本人または両親・兄弟が他の薬物に対するアレルギー、蕁麻疹、気管支喘息、アレルギー性鼻炎又は食物アレルギー等の患者
- (2) 肝又は腎障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- (3) 血液障害(貧血、白血球減少等)のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 過敏症状を予測するため、十分な問診を行うこと。
- (2) 原則として長期投与を避けること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

- 1) ショック(0.1%未満): ショック症状があらわれることがあるので観察を十分に行い、胸内苦悶血圧低下、顔面蒼白、脈拍異常、呼吸困難等の症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと。
- 2) 皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell 症候群)(0.1%未満): これらの副作用があらわれることがあるのでこのような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) 再生不良性貧血、無顆粒細胞症(0.1%未満): これらの副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) 黄疸(0.1%未満): 黄疸があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

(2) その他の注意

種類\頻度	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症	発疹・紅斑、浮腫、小疱性角膜炎、結膜炎、癢痒等	
血液		貧血、血小板減少等
肝臓		GOT 上昇、GPT 上昇、ALP の上昇等
腎臓		腎障害
消化器	胃痛、食欲不振、悪心・嘔吐、下痢等	
その他	頭痛	

上記の副作用が現れることがあるので、異常が認められた場合には必要に応じて中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦への投与

- (1) 動物実験で催奇形作用が報告されているので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。
- (2) 妊娠末期のラットに投与した実験で、弱い胎仔の動脈管収縮が報告されている。

6. その他の注意

非ステロイド性炎症鎮痛剤を長期間投与されている女性において一時的な不妊が認められたとの報告がある。

規制区分: 本品は劇薬である。
貯 法: 気密容器、室温保存
使用期限: ラベル等に記載

包装単位
500g

吉田製薬株式会社 学術部
東京都中野区中央5-1-10